

工業統計調査の特徴と茨城県工業の動向

通商産業大臣官房統計調査部
工業統計課総括班長

寺田清一

はじめに

工業統計調査（工業センサス）を毎年実施するにあたって、地方公共団体の関係者、工業統計調査員の方々が対象事業所から、この調査の特徴や利用について質問されることがあると聞いていますので、これらについて若干の解説をすることを本稿の主眼とする。したがって本調査の集計結果の利用の一例として茨城県工業の5年間の歩みを付記しましたが、とくに分析はしないで、きわめて表面的に記述しました。

1 工業統計調査の特徴

この調査はわが国における製造業に属するすべての事業所を対象とし、これらについて生産のため使用された生産要素および生産活動の成果等について調査し、わが国における製造業の実態を構造的に把握して、生産活動に関する基本的資料を提供することを目的としているもので、この調査の特徴とこれに関連した利用面の一端を要約するとつぎのとおりである。

(1) 事業所単位であること

調査の単位は事業所で、企業単位でないから、同一企業内事業所で受払いした原材料、出荷は重複して計上される。ただし付加価値額は重複しない。

本調査は事業所の生産活動を全体としては握しようとするのに対し、生産動態統計調査は特定品目の生産、受払いをは握しようとするものであるから、両統計は調査品目や調査対象の範囲が異なっている。したがって本調査の品目別統計では、事業所の産業格付けに必要な品目は、ウェイトの極めて低い品目でも特掲するが、一方事業所内で自己消費されてしまう品目や、製造業に格付けされない事業所の生産品目は握されない欠点がある。近來、両統計の個々の特掲品目の定義範囲を統一することに努力し成果を挙げてきたが、さらに両統計の有機的なリンクを図ることは今後に残された課題となっている。

(2) 悉皆調査であること

製造業に格付けされる事業所は、零細規模のものでも全て対象としているので、製造業を全体的に観察する場合の基礎資料となる。また他の調査を行なう場合、例えば標本調査の母集団、裾切り調査のは握率推定資料として不可欠のものである。

(3) 付加価値額のは握を目標としている

事業所の生産活動を観察するためには、付加価値額を明らかにする項目の調査に重点を置いている。この付加

価値額に各種指数例えば物価指数、鉱工業生産・出荷・在庫指数の作成にあたって、品目の選定、品目別、業種別のウェイト決定に不可欠の資料であり、また国民所得の推計や産業連関表の作成に活用されている。

(4) 調査結果の表章様式は3本の柱から成立つ

本調査の建て方、または使い方として着眼すべき点には、業種別、規模別および地域別という3本の柱が基本になっていることであり、本調査から作成される各種結果表（工業統計表産業編、品目編、企業編、用地、用水編、および分布相関編）はすべてこの3本の柱の組合せによって表章されている。

(5) 時系列が使命であること

本調査は、明治42年工場統計報告規則により実施されて以来60年を越える時系列データをもっている。故に製造業について、長期的推移を究明し、将来の工業その他経済一般の長期的予測に利用できる。一方、時系列を尊重するため、調査項目や調査方法の変更は容易でなく、いわゆる小回りのきかない巨象のような感がある。

2 工業統計からみた茨城県工業動向の一断面

昭和45年に策定された「新全国総合開発計画」や、本年成立した「工業再配置促進法」、さらに最近のベストセラー「日本列島改造論」などによれば、わが国製造業の大規模な再配置が行なわれるであろうことは想像に難くない。製造業の再配置のための前提条件として、土地、水、労働力などの確保や、鉄道、道路、港湾の整備その他多くの条件を充たすことが必要と考えられる。幸いにして工業用地および工業用水については、本調査が唯一の基礎資料を提供している。これらの項目と出荷額を中心として、本調査集計結果から、昭和40年から昭和45年まで5年間の茨城県製造業の推移の一断面をたどってみよう。

(1) 事業所数の推移

全規模事業所数でみると、全国では5年間は17%の増加であるが、茨城県では22%の増加で全国の伸び率を上回っている。しかし従来ウェイトが低かったので、全国に占める茨城県の構成比は昭和40年の1.4%から、1.5%へとわずかな上昇を示したに過ぎない。しかし従業者数100人以上の大規模事業所についてみると、全国の20%増に比し茨城県は86%とめざましい躍進である。

(2) 従業者数の推移

従業者数は、この5年間に全国では17.7%の増加に比し、茨城県では48.4%と著しい増加である。そして全国

に占める茨城県の構成比は1.6%から2.0%へと事業所数の伸び率を若干上回った。

(3) 製造品出荷額等の推移

生産活動の成果である出荷額についてみると、わが国の製造業は昭和40年秋の景気底入れ以降、世界に類例のない高度成長を達成した。この5年間の全国製造業の推移を生産額（推計を含む。）でみると、2.34倍（45年/40年）の伸びで、また茨城県の出荷額は3.36倍（45年/40年）の成長を示した。

茨城県の出荷額の伸び率は、このような全国の高度成長を著しく上回り3.36倍（45年/40年）に達した。また、出荷額による業種別構成比の5年間の推移をみると、昭和40年には電気機械器具製造業（構成比28.6%）が圧倒的優位を占め、ついで非鉄金属製造業（同18.6%）、食料品製造業（同13.2%）、一般機械器具製造業（同8.6%）の順であったが、昭和45年では電気機械器具製造業（同22.6%）、非鉄金属製造業（同16.5%）の順位は変わらないが一般機械器具製造業（同13.4%）、鉄鋼業（同8.5%）など重工業業種のシェア増大が目立ち食料品製造業（同8.4%）は相対的に地位が低下した。全国に占める茨城県の構成比は5年間に1.4%から2.0%への上昇を示したに過ぎないが、後述するような工業用地の拡大の結果から、生産活動の成果である出荷額の増加はかなり時期的にずれられると思われるので、今後の茨城県の全国に占める位置は急速に高まることが期待できよう。（46年工業統計の全国集計はまだできないが、46年、47年の鉱工業生産指数の動向で推測できる。）

(4) 工業用地・工業用水の推移

国土の狭隘という困難を打破して、わが国産業の総合的な発展と国民福祉の向上のため、国土の開発、利用の

再編成に関して種々の計画が策定されている。とくに昭和37年の全国総合開発計画、続いて44年の新全国総合開発計画で地域格差の是正をねらいとした拠点開発計画がとりあげられ新産業都市の建設、工業整備特別地域の整備が進められた。

工業用地拡大の状況を統計でみると、地域によっては必ずしも過密、過疎地域の再編成などの成果があらわれたとはいえないようである。しかし三大都市外周地域としては関東北部（茨城県、栃木県および群馬県）、とくにその一環としての茨城県では工業再配置の成果がよくあらわれている。すなわちこの5年間の工業用地の推移は、全国では1.35倍（45年/40年）の上昇であるのに対し、関東北部としては1.87倍の上昇、とくに茨城県では2.29倍（45年/40年）と土地開発が著しく進歩している。このような土地需要の増大に伴い、茨城県の工業用地取得単価の上昇も著しい。すなわち昭和45年における取得単価の対前年上昇率は全国平均で1.07倍（45年/40年）であるが、茨城県では、1.7倍の高騰で、上昇率の高い順では全国第3位にあげられる。（第1位は愛媛県の2.9倍）全国における茨城県の構成比は2.1%から3.6%へと著しい上昇を示した。

工業用水使用量の推移をみると、この5年間の全国の伸びは1.75倍（45年/40年）に過ぎないが、茨城県では約6.4倍の激増した。また全国に占める茨城県の構成比は0.6%から2.2%へと上昇した。茨城県は元来水資源は豊かであるが、この5年間の工業用水の需要増を賄った水源としては、地表水、地下水のほか、回収水あるいは海水である。また工業用水の増大状況を産業別にみると、主として化学工業、鉄鋼業、石油精製業、窯業・土石製品製造業などであるが、とくに昭和45年から化学工業および石油精製業が新たに海水の利用を開始したことが注目されよう。

工業統計主要指標比較表

区 分	事業所数		従業者数 単位:1,000人	製 造 品 出 荷 額 等 単位:10億円	敷 地 面 積 (従業者数30人 以上事業所) 単位:100万㎡	工業用水 (従業者30人以上 事業所) 単位:1000 ³ /日			
	全規模	うち 従業者数 100人以上 事業所				合 計	淡 水	海 水	
昭和40年	全 国 (A)	558,106	13,149	9,921	29,489	802	70,524	49,162	21,362
	茨 城 県 (B)	8,008	178	155	406	17	431	428	3
	構成比 B/A	1.4	1.4	1.6	1.4	2.1	0.6	—	—
昭和45年	全 国 (A)	652,931	15,787	11,680	69,035	1,086	123,180	85,041	38,139
	茨 城 県 (B)	9,802	331	230	1,364	39	2,766	1,773	993
	構成比 B/A	1.5	2.1	2.0	2.0	3.6	2.2	—	—
45年/40年	全 国	117.0	120.0	117.7	234.1	135.4	174.7	—	—
	茨 城 県	122.4	186.0	148.4	336.0	229.4	642.4	—	—